

## 第 5 9 回 江戸川区廃棄物減量等推進審議会 議事録

開 催 日 令和 2 年 8 月 3 1 日 ( 月 )

会 場 グリーンパレス 2 階 千歳・芙蓉

報 告 事 項 ( 1 ) 令和元年度のごみ・資源量について  
( 2 ) 江戸川区食品ロス削減推進計画について

江戸川区廃棄物減量等推進審議会事務局  
( 江戸川区環境部清掃課 )

**【事務局（加山参事）】**

皆様、こんにちは。定刻少し前ですけれども、皆様おそろいになりましたので、始めさせていただきます。私、環境部で参事をしております加山と申します。冒頭の司会進行を担当させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

このたびの開催につきましては、新型コロナウイルス感染症対策が必要な中での開催になっておりまして、御理解と御協力を頂き、誠にありがとうございます。事務局としても、いつもより会場を広く使用するなど、できる限りの対策を取りながら、短くスムーズな議事進行が行えるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは第11期審議会のスタートに当たり、審議に先立ちまして、環境部長高原より御挨拶申し上げます。

**【高原環境部長】**

皆様、こんにちは。環境部長、高原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、委員の皆様方には、今司会からもございましたけれども、新型コロナウイルス感染症対策という、大変重要な時期の中での当審議会の開催に御協力、それから御理解をいただきまして、改めて御礼申し上げたいと思います。本日は誠にありがとうございます。

私どもは、平成12年度から江戸川区が東京都から移管を受けました清掃事業を引き継いだところで、ちょうど今年で21年目ということでございます。こちらの審議会もスタートしたのが平成12年8月ということでございますので、その第1回から数えまして今回が59回目という開催の形となっております。本日から任期といたしまして第11期の廃棄物減量等推進審議会ということでございますけれども、新たな委員の皆様もお迎えさせていただきまして、また引き続き様々な観点、視点から御議論を深めていただければ幸いだなと思っております。

まず本日でございますけれども、冒頭次第にございますが、ビデオを、区民ニュースのSDGsの特集号を作りましたので、そちらのほうを皆さんで御覧を頂きまして、その後本日御報告、それから御審議いただきたいことが2点ございます。こちらのほうを案件とさせていただければと思っております。

それから本日は、織委員さんなんですけれども、オンラインということで、いわゆるリモートでの会議参加ということでございます。こうした会議の持ち方も、本当にコロナ禍ならではの感じもいたしますけれども、いわゆる「新しい生活様式」ですね。こうしたものを当審議会でも審議の中で入れさせていただければと思っております。

最後になりますけれども、本日の開催に当たりまして、御理解と御協力をいただきましたこと御礼を申し上げまして、それからこうした時期でございますので、できるだけ短時間での議事進行に努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。冒頭の御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

**【事務局（加山参事）】**

高原部長ありがとうございます。委員の皆様への委嘱につきましては、恐縮ではございますが、委嘱状を机上に配付させていただいておりますので、それをもって代えさせていただきます。どうか、よろしくお願いいたします。

第11期のスタートに当たりまして、事務局より委員の皆様を御紹介させていただきます。

学識経験者として、岡島成行委員でございます。

**【岡島会長】**

岡島でございます。

**【事務局（加山参事）】**

同じく、織朱實委員でございます。

【織副会長】

織でございます。よろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

織先生、ありがとうございます。

続きまして、区議会を代表いたしまして、中山隆仁委員でございます。

【中山委員】

はい、よろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

お願いします。同じく、伊藤照子委員でございます。

【伊藤委員】

よろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

お願いします。続きまして、事業者を代表いたしまして、松本勝義委員でございます。

【松本委員】

松本です。よろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

お願いします。同じく、佐藤聖之委員でございます。

【佐藤委員】

はい、よろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

お願いします。同じく牧野恵一委員でございます。

【牧野委員】

牧野です。よろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

お願いします。同じく田口勝久委員でございます。

【田口委員】

田口です。よろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

お願いします。続きまして、住民団体代表といたしまして、小野瀬二郎委員でございます。

【小野瀬委員】

はい、よろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

同じく千倉嘉一委員でございます。

【千倉委員】

よろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

同じく松川香委員でございます。

【松川委員】

よろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

区民代表として、稲村智美委員でございます。

【稲村委員】

稲村です。よろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

同じく井邊恵津子委員でございます。

【井邊委員】

よろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

同じく、加固康二委員でございます。

【加固委員】

加固です。よろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

同じく齋藤智子委員でございます。

【齋藤委員】

どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

ありがとうございます。今後2年間の任期となりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

引き続きまして本審議会、第11期の会長と副会長の選任を行います。規則上、委員の皆さまの互選で行うことが定められております。どのようにお取り計らいいたしましょうか。

【委員】

事務局の一任でお願いしたいと思います。

【事務局（加山参事）】

ありがとうございます。ただいま、事務局一任のお声をいただきましたので、こちらのほうで御指名させていただいてよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

【事務局（加山参事）】

ありがとうございます。岡島先生、織先生のお二人とも、今期も本審議会委員をお引き受けいただきましたので、会長、副会長としても引き続きお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

【事務局（加山参事）】

どうもありがとうございます。それでは、岡島先生、織先生、どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。ここで、岡島会長、織副会長に御挨拶を頂きます。

【岡島会長】

皆さん、こんにちは。もう11期ですか、最初からずーっとやっているんですね。もういいだろうと、織先生にと言っているんですけど、なかなか許してしていただけなくて、もう今回が最後ぐらいだと思っておりますけれども。私も新聞記者時代からずっと環境問題を担当しております。もう40年以上、公害の頃から日本の環境問題をずっと担当しております。それからまた江戸川区がまだまだ環境にあまり熱心ではなかったような時期、その頃からもう担当させていただいております。そしてこの20年の間に、江戸川区は全く見違えるほど、環境先進地域になっていただきまして、大変ありがたいと思っております。そして途中からは、日本一のエコタウンを目指そうということで、大変、織先生もそうなんですけれども、前の松田美夜子先生が副会長でいらした頃も、厳しい御指摘を続けられて、それがもとで江戸川区は1周遅れの区だったのが、23区トップに立つような業績を挙げられるようになりました。今後とも皆さんと一緒に、江戸川区の環境意識をもっと高めて、全国に冠たる環境先進区として頑張るよう応援させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【事務局（加山参事）】

どうもありがとうございます。それでは、織副会長よろしくお願いいたします。

【織副会長】

織です、聞こえますでしょうか、大丈夫ですかね。今回はウェブという形で、コロナ禍ですが対応をさせていただいております。私、今授業も全部こういう形でオンラインでさせていただいております。なかなか江戸川区のほうではウェブ対応は難しいという

ことだったんですけど、急遽今回ウェブで対応できるということですので、初めてこういうかたちでやらせていただいております。まだちょっと多分、いろいろセッティングがそれほどいろいろあるわけじゃないので、皆さんにとって同じように聞きやすいという形にはなっていないかもしれないんですけども、まあ短い時間なので、ちょっと今回はこれでやり過ぎたいかなと思います。

また、今回は副会長に御指名ありがとうございました。岡島先生と一緒に、私もかなり長いことやらせていただいておりますが、特にリサイクルですとか、リデュースについて江戸川区は頑張っていて、すごく本当に頑張っていて、この審議会委員の皆さんもすごく積極的に、いろんな御提案をなさっていらっしゃいますので、とてもいい感じで区と住民の共同がいていると思うので、できましたらこれを続けていきたいなと思います。

若干この会議で気になっているのは、高齢化が進んでいるかなという形、ちょっと気になっているので、もうちょっと若い人も委員に入ってきたりするといいなと思ってますが、何とか若手の学生さんですとか、主婦の方々ですとか、意見も取り入れるような形でやっていければなあと思います。よろしくお願ひいたします。

**【事務局（加山参事）】**

岡島会長、織副会長、ありがとうございました。この際ですので、事務局職員につきましても、紹介をさせていただきます。自己紹介の形でさせていただきます。

**【高原環境部長】**

改めまして、環境部、高原でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

**【事務局（高橋課長）】**

この7月15日で環境推進課長を拝命いたしました高橋でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

**【事務局（吉田係長）】**

この審議会のほうを所管しております、清掃課庶務係長の吉田と申します。よろしくお願ひします。

**【事務局（佐藤主査）】**

同じく清掃課庶務係主査の佐藤と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

**【事務局（浅岡係長）】**

同じく清掃課清掃事業係長の浅岡と申します。よろしくお願ひいたします。

**【事務局（浜田主査）】**

同じく清掃事業係主査の浜田と申します。よろしくお願ひいたします。

**【事務局（石川係長）】**

清掃課ごみ燃料係長の石川と申します。よろしくお願ひいたします。

**【事務局（徳田主査）】**

同じくごみ燃料係主査の徳田でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

**【事務局（佐藤次長）】**

私、江戸川エコセンター事務局次長の佐藤と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

**【事務局（加山参事）】**

最後、私、司会進行を務めさせていただきます、環境部参事、加山でございます。清掃課長の事務を取り扱っておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

それでは本日の会議に先立ちまして、配付資料の確認をさせていただきます。まずお手元に、皆さまの委嘱状を置かせていただきました。それから資料1でございますが、江戸川区廃棄物減量等推進審議会委員名簿(第11期)、資料2として、令和元年度のごみ・資源量について(確定値)、資料3として、江戸川区食品ロス削減推進計画について(概要案)、参考として、第58回江戸川区廃棄物減量等推進審議会の議事録。本日の資料は以上でございます。資料の不足がございましたら、事務局にお声かけください。よろしいでしょうか。

それでは、岡島会長、よろしくお願ひいたします。

【岡島会長】

それでは、ただいまから「第59回江戸川区廃棄物減量等推進審議会」を開会いたします。本日は、まずはじめにビデオを御覧いただきます。それでは事務局、よろしくお願ひします。

【事務局（加山参事）】

御覧いただきますビデオは、8月1日から公開されております、江戸川区民ニュースでございます。SDGsを特集とした番組で、こちらには織副会長にも御出演いただきまして、SDGsについて、詳しい解説を頂いております。お時間は約20分です。それでは御覧ください。

【ビデオ上映】

【岡島会長】

どうもありがとうございました。それでは副会長の織先生から、SDGsについて追加のお話をちょっといただきたいと思ひますけれども、織先生、よろしくお願ひします。

【織副会長】

いきなり振られちゃいましたけど、今ビデオを見ていただいたように、すごくSDGsは遠いもののように思ひますけれども、私たちが身近にできる、例えば最近では海洋プラスチックの問題ですとか、レジ袋というものを使うことがどうやって環境とか経済とか社会に影響があるんだろうなというのを考えてもらえばいいと思ひます。ただ、今レジ袋が有料化になった、禁止されたからやるといふんじゃなくて、何でレジ袋を禁止しなくちゃいけないんだろうということも考えてもらいたいと思ひます。

それからもう一つ、SDGsを考えるときに、私たちの消費生活とSDGsがどうつながっているかというのはすごく重要だと思ひます。例えば、ユニクロのTシャツとかは、すごく安いですよ、2,000円ぐらい。何でこんな安いTシャツが可能なんだろう。どこかに無理があるんじゃないかというようなことを、一つ一つ考えていただきたいなと思ひます。だから、あるものがこの値段で本当にいいんだろうか。どこかで児童労働ですとか、あるいは環境破壊みたいなものにつながっていないかということも考えていただきたいなと思ひます。

なので、多分世界全体、あるいは環境・経済・社会、この3つの観点から私たちの身の回りのものの中で、自分だけが得していればいいやというものばかりじゃなくて、これ何でだろう、社会とのつながりはどうなんだろうということを少し考えていただければなと思ひます。

これはコロナの後、すごく皆さんにとっては身近になっていると思ひますね。コロナまでは、日本だけがよければいい、あるいは日本で、じゃあコロナ感染をきっちりしていればいいやと思ひていたかもしれないんですけども、コロナの後、たとえどんなに日本でコロナ対策がうまくいっていても、アフリカで駄目だったらそこから送ってくるべきコットンがなくなって、その結果として作れないものがあるというような、世界がつながっている世界というのを皆さん実感なさっていると思ひます。だから、私だけがいいやとか、日本だけがいいやじゃなくて、つながる世界の中でSDGsの目標を皆さんで考えていければなと思ひます。

岡島先生、ありがとうございました。

【岡島会長】

はい、どうもありがとうございました。このSDGsの前にも国連で目標を出して、貧困をなくそうと。世界中の子供たちの半分以上が小学校に行けていないんだと。それを何とかしようとか、特に女の子が行かれないという問題とか、貧困その他で、主に途上国を何とかしようというのはあって、それが今度は環境問題がずっと地球的規模になってきて、その2つがある意味合体したような形で、SDGsというものができて。これは簡単に言うと、時代がこれだけ便利になってきているから、世界全体のことを皆で考えな

きやいけないというベースができたので、こういうことが言えるようになったと思います。20年前までは途上国か、もしくは先進国かで、意見が大きく分かれていたし、いろいろな意味で世界が狭くなって、皆が我々市民一人一人が世界を考えなきゃいけない時代になったんだということですね。

それからもう一つは、今まで高度成長などを振り返ってみても、やっぱりやり過ぎている。歩けばいいものを車に頼る。テレビも全部リモコンで6畳一間でちょっと歩けばスイッチ入るんだけど、面倒くさいからリモコン。1日中つけっぱなし。こういう便利、便利というところが、やっぱりちょっとやり過ぎて、便利が行き過ぎて今度は肥満になる、病気が起こるといようなことで、やはり生活全般を少し、人間の生き方と言いますかね。そんなものを少し考え直そうと、そういう意味も込められていると思うんです。ですから、先ほど織先生が高齢化していると言われたけど、高齢者の子供時代の生活を振り返れば、地球温暖化なんか起こり得ないわけですね。そういうことで、やはり生活の全般をいろいろな形で見直していこうじゃないかという、一言で言うと世直し運動なんですけども、これを個人と世界が結ばれるようになってきたと、そういうことではないかと思えます。

それでは議事に移りたいと思います。本日は報告事項が2つあります。

一つは、令和元年度のごみ・資源量につきまして、統計ですけれども、事務局から御説明お願いいたします。

#### 【事務局（加山参事）】

会長、申し訳ございません。その前に、先ほど資料の確認をさせていただいたんですが、配付資料は以上だと申し上げたんですけれども、実はすいません、もう2つ、机上に置かせていただいております。ちょっとその御説明を先にさせていただきます。

まず「えどがわくのごみダイエットにチャレンジ！ごみゼロ達人をめざそう！令和2年度版」。それと「今日からはじめる3R - ごみ減量にチャレンジ！」と、この二つの冊子がございます。今後の審議会の参考にしていただければ幸いですので、よろしく願い申し上げます。以上でございます。

それでは、今会長から言っていた、令和元年度のごみ・資源量についての確定値の御説明をさせていただきます。資料2でございます。こちらが刷り物でございます。

前回7月に第58回の審議会を行いました。その際は速報値を御報告させていただきました。この8月に持込ごみ量が確定したことを受けまして、令和元年度の江戸川区全体のごみ量が確定しましたので、報告をさせていただきます。

まずこの資料2の上段の表の上の部分に、これはごみ量の推移を示したものを表してございます。この中にある持込ごみというのは、1の説明のとおり、排出事業者自ら、もしくは事業者から委託を受けた業者が収集したものでございます。これを除いた燃やすごみ、それから燃やさないごみ、粗大ごみが、江戸川区で収集を行っているごみでございます。ごみ量で注視すべきことは、ごみ量合計のところでございます。近年続いていた減少傾向が、前年度比で1,668トン増えてしまいました。全ての種別で増加に転じたことでございます。なので、区民の皆さんに対して、ごみの発生抑制と適正分別をより効果的に啓発していくことが必要であるかと思っております。

それからこの上段の表の下にある囲みですが、こちらは資源ごみについて表しております。約3万2,000トンで、前年度と比較して、約500トン増加してございます。この増加した理由としては、インターネット通信などの普及による段ボールの回収量が増加したことをはじめとしまして、新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響などが考えられておりまして、このような回収量が増加したと考えているところでございます。

一方、集団回収の回収量は減少してございます。これは新聞ですとか、雑誌の購読料の減少が影響しているのではないかと考えてございます。

それから下段の棒グラフと折れ線グラフが混じった資料でございますけれども、棒グ

ラフの薄いほう、これはごみの減量目標を表してございます。それから棒グラフの濃いほうは、実績値の推移を比較したものでございます。江戸川区では法律に基づいて、江戸川区一般廃棄物処理基本計画、通称はごみダイエットプランと称しておりますが、これを策定しまして、この計画の中でごみの減量目標値を設定してございます。この目標値でございますが、令和3年度に平成12年度比でごみ量を2割減らすぞという目標を目指してやってまいりました。20%削減ということです。量にすると16万5,400トンまでごみ量を減らさなければなりません。グラフの推移を御覧いただくと、これまで各年度の目標値以上にごみ量を減らしてきたところだったんですけども、ここに来て増加に転じて、折れ線グラフでも表してありますが、削減率も0.8ポイント下がって、18.3%となっております。目標年度の令和3年度まであと2年間となっておりますけれども、目標達成まで、残り3,486トンの削減が必要でありましてごみ減量に向けて、さらに取り組みを加速させていかなければならないと思っております。この資料の説明については以上でございます。

【岡島会長】

ありがとうございます。この点につきまして、御質問、御意見ございましたら、どうぞお願いいたします。よろしいですか。

やっぱり緩んだんですかね。この去年、一昨年か。一昨年から去年にかけてだから。

【事務局（加山参事）】

ここんとこ、ちょっと。

【岡島会長】

ねえ、今までずっとよくできたから、いいな、いいなと思っていたんですが、コロナの前の話も入っているわけだから、やっぱり皆で頑張らないといけませんね。

【事務局（加山参事）】

はい、おっしゃるとおりでございます。

【岡島会長】

ここ数年で初めてですもんね、こういう形で。

【事務局（加山参事）】

はい、コロナのこういった状況になってしまっていますので、事業活動ですとか、そういったものは現在は低下していますが、それまではどちらかというと、事業活動も結構活発になってきての背景があつたのではないかと感じていたところではございます。

【岡島会長】

ちょっとよく分析してね、事業のほうはずっと皆で協力したらやりやすいんだけど、家庭ごみのほうは一度緩むと、やっぱり日本全体もそうなんですけど、事業ごみのほうのはるかにきちんとできる。家庭ごみのほうが難しい状況ですね。特にコロナのように、家庭生活が多くなると。ただ、事業が減れば、全体的に言えば減るわけなんですけど、家庭が増えたとしても。それでも増えているということは、やはり何らかの形で分析をきちんとして、攻撃というのかな、直すべきところをかなり明確化して、そこに重点的に少しやっていく必要があるかもしれませんね。

それでは最後にまた、時間もちょっと取っておりますので、これと関係ないことでも御質問を頂きたいと思っております。

次に江戸川区食品ロス削減推進計画の策定につきまして、事務局から御説明お願いいたします。

【事務局（加山参事）】

こちらにつきましては、ごみ減量係主査の徳田のほうから御説明申し上げます。

【事務局（徳田主査）】

ごみ減量係主査の徳田でございます。次第の江戸川区食品ロス削減推進計画の策定についての中間報告として、私から概要のほうを説明させていただきます。お手元の資料3、横型のA3の資料3に基づいて、お話をさせていただきます。



まず左上なんですけれども、策定の目的と位置づけということで、江戸川区は平成28年度以降、えどがわ食べきり推進運動というものを展開いたしまして、食品ロスの削減について取り組んできたところですが、ちょうど、去る令和元年10月におきまして、食品ロス削減推進法というものが施行されまして、その中で義務という規定ではないのですけれども、各自治体においては策定する努力をしなければいけないという規定が設けられたこともありまして、区としても積極的に計画を策定していこうということになっております。

2番、目的なんですけれども、今お話がいろいろありましたSDGsの視点も踏まえまして、食べ物を無駄にしない意識を区民や団体等の中で醸成し、まだ食べることができる食品をできるだけ食品として活用することを推進すると、こういったことを目的といたしまして計画を策定していきたいと考えております。この計画自体につきましては、状況に応じまして、見直しも適宜していく予定になっておりますが、こちらのほうはまた江戸川区の一般廃棄物処理基本計画との整合を図りながら、策定をしていきたいと思っております。

それでは左下の「策定の内容」ということになりますけれども、一つ目、計画期間としては令和3年度から令和12年度まで、2030年度まで、10年間を計画期間といたしまして、こちらSDGsの2030年度の区切りと合わせたものになっております。目標といたしまして、大きく分けると2点ございます。一つ目が、食品ロス量の目標でございます。食品ロスと言いましても、大きく分けると、家庭系から出るもの、事業系のものとございますけれども、江戸川区のほうで推計いたしまして、平成22年度家庭系が6,500トン、それから事業系が2,000トンございまして、およそ8,500トンと推計をしているところでございます。こちらを基準といたしまして、目標値といたしまして、令和12年度、2030年度におきましては、その半減とここでは書かせていただいておりますが、8,500トンから4,000に減らそうということで、頑張っていきたいと思っております。それから2つ目の目標としては、認知度ということで、計画期間中に食品ロスの問題を認知して、それぞれ区民の皆さんが削減に実際に取り組む方々の割合を80%以上とすることを目標としたいと思っております。

資料右上に移りまして、計画の推進の軸となるものとして、今後も推進する主な取り組みということで、これまで同様にえどがわ食べきり推進運動は実施してまいります。このえどがわ食べきり推進運動の中には、たとえば30・10運動であるとか、食べきり推進店、それから食べきりレシピ、フードドライブなどの事業を実施しております。特に食べきり推進店については、令和12年目標としてこれまでの実績のおよそ倍の600店舗の店舗を登録しようという目標を設定しております。食べきりレシピについては、令和12年度目標として、250レシピ。それからフードドライブにつきましては、令和12年度目標として、フードドライブという事業を知っている区民の方が100%、皆さん全員がそれぞれフードドライブについては一定の知識を持てるような環境を作っていきたいと思っております。

それから右下になります。目標達成に向けた取組でございます。江戸川区は今後とも食べきり推進運動を精力的に実施してまいります。それから、区民、関係団体、区が一体となりまして、連携の対象を広げながら、食品ロスの削減に自らの問題としてそれぞれが取り組んでいく環境づくりをしてまいります。関係団体といたしましては、皆さんこちらの、廃棄物減量等推進審議会の皆さんをはじめ、食品衛生協会であるとか、エコセンターであるとか、区内フードバンクであるとか、商店街の方々と連携を深めて、さらなる食品ロスの削減を推進していきたいと考えております。

なお、今後のスケジュールといたしましては、今年の秋以降から年内にかけましてパブリックコメントを実施していき、年明けか次の審議会においては、そのパブリックコメントに関する御報告をさせていただければと思っております。その上で、令和3年3月、今年度末には、本計画を公表することを目指して、準備を進めてまいりたいと思っております。食品

ロス削減推進計画の内容については、以上でございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。この食品ロスにつきまして、今の区の計画について、御意見がございましたら、お願いいたします。よろしいですか。

【伊藤委員】

いいですか。

【岡島会長】

はい、どうぞ。

【伊藤委員】

この計画を策定していただくことによって、区民の人がこの食品ロスって何だろうということから始まって、大きく広がるのではないかなと思って、期待をしているところなんですけれども、今まで取り組んできたことが右側に載っているんですけど、フードドライブのところ、全然数が増えてこないという現状があって、これはずっと我々も取り組んでいるところなんです。この右側を100%にするには、この課題を解決しなきゃいけないんじゃないかなと、すごくかねがね思っているところなんですけど、こういったことを載せるのであれば、これを広げていくにはどうしたらいいかというような、これからの新しい取組みたいなものを、やっぱりこの年度末までに考えていただいて、今回コロナでやはり一人親とか貧困家庭が大変なときに、この間も言ったかもしれないんですけど、子ども食堂がみんなできなくなって、そういったところが手が届かなかったのがすごい現状で、フードドライブがやっていたので取りに行っている御家庭はあるんですけど、もっともっと機能的にできなかったかなというのがすごく残念だったんですよ。だからこういった計画を作るのであれば、食品ロス削減ももちろん大事だし、その無駄にならないようにするために、困っている方のところにお届けできるような、そういったところにこの食品ロス削減のものがしっかりと回っていく、循環してくるような、そういったことをぜひ新しい取組みとして、この計画の中に盛り込んでもらいたいなと思うんですね。家庭で余っている食品だけではなくて、今セブンイレブンもすごいいろいろやっていますよね。イオンさんもこの食品ロスにはすごく精力的に取り組んでいるので、そういった事業者さんなんか、さっきの映像にもいろいろ協力していただいているところはありますよね。この食品ロスについても、江戸川区内の事業者さんにぜひアイデアを出してもらって、協力してもらって、この計画の新しい取組をぜひ盛り込んでほしいなと思うんですけど、その辺はどのようにお考えになっていらっしゃいますか。

【岡島会長】

はい、どうぞ。

【事務局（加山参事）】

すみません、私のほうからお答えさせていただきます。まず1点目、フードドライブに関して今後の取組の広がりについてですが、従前まではフードドライブにつきましては、フードバンクを通して、例えば生活困窮者であるとか、母子家庭の皆さん中心に、お渡しするような仕組みができておりました。今後の広がりとしては、例えばなんですけれども、共育プラザを利用するお子さんたちへお配りするとか、そういった動きもございまして、フードドライブ活用の広がりについては、今後も検討してまいりたいと思います。つまり適切なものを必要とする方々に適切に行きわたるような仕組みをより充実させていきたいと思っております。

それから2つ目が、連携につきましてなんですけれども、今議員さんから事業者についても連携のお話を頂いたところなんですけれども、ちょうどこの春にセブンアンドアイホールディングスと協議する場を持つことができました、食べきり推進店におきましては区内のイトーヨーカドーについては新たに登録をいただきまして、食品ロスの削減について協力いただくことが決まったところでございます。今ちょうど議員さんから

話がありました、例えばコンビニ、ちょっと具体的に言いますと、セブン・イレブンとかそういったものなんですけれども、今コンビニ業界も食品ロスに力を入れているところが多ございまして、こちらとしては例えば今セブンアンドアイホールディングスのお話させていただきましても、その傘下にありますセブン・イレブンにつきましても、食べきり推進店の登録をお勧めしているところございまして、ちょっとイトーヨーカドーについては登録自体は円滑に進んだんですけれども、セブン・イレブンについてはちょっといろいろ業界的にも課題があるらしくて、今検討していただいているところなんですけれども、そういった状況があることも、この場をお借りしましてお話をさせていただきます。

【伊藤委員】

ありがとうございます。いろんな日本の流通機構のあり方にも、この食品ロスについては課題があるというのは分かっているんですけど、今食べきり推進店にイトーヨーカドーさんが入ってくださったというお話がありまして、その後廃棄するものは、たくさんああいうところはあるわけなんですよね。そういったものを食品ロスにならないようにするにはということで、例えば区と、何か協力して、そういった食品が流通するような仕組みをぜひ、どういうふうにできるかは今すっごくいろんなことをやっていますよ、全国で。ぜひ研究していただいて、江戸川区としてこういった食品ロスにならない、食品がきちんと流通するような仕組みを江戸川区として研究していただいて、この推進計画の中にぜひ新しいそういう仕組みを載せていただくようにしていただきたいなとすっごく思いますので、よろしく願います。

【岡島会長】

ありがとうございました。議長で申し訳ないんですけど、10年かかってこんなものやったってしょうがないじゃない。こんなもの、二、三年でやってほしいですよ。10年かかって、何ですか、310店舗を10年かかって600店舗にするなんて、間が抜けているんじゃないんですか、少し。もう少し本気でやってもらわないと、8,500を4,000という目標はいいですよ。4,000にするための具体的な、店を増やすとかレシピを、64レシピを250レシピにするのに、どうして10年かかるんですか、こんなもの。こんなの、1年でもできるでしょう、皆で力を合わせれば。そしたら、それをどうやって実行して行って、どのように普及して行って、それをずっと集めてきて、4,000にするわけでしょ。それが計画というもんじゃないですか。店を増やすのに10年かかってどうするんですか、これは。こんなもんじゃ、何もできないんじゃないですか。だからやはり、少しそういうところを、もう少しシビアに考えないと、前から言っているように、江戸川区エコタウン日本一になって、これ、日本一どころか、よその区よりずっと遅れちゃうんじゃないかという気がしますね。だから10年に合わせるのは結構ですよ。だけど合わせたら、その目標は250レシピじゃなくて、レシピを作ってそれをどのように実行して普及していくか。そういうことじゃないんでしょうかね。だって、どう考えたってさ、10年かかって、どうして250レシピまで行くなんてことなんでしょう。310店舗を10年かかって600にすると、これもやっぱり、今イトーヨーカドーさんとかいろいろ御苦労されているとは思いますが、フードバンクなんかについても例えば、これは部長さんのお話かもしれませんが、予算を付けて力を入れていくとか、いろんなことをもっと力強くやらないと、庶民というか、区民の協力が得られないとか、野放しにするとか、そういう感じになってくるんじゃないかなという危惧をも抱きましたね。ですから計画を作るに当たっては、こういう数字だけじゃなくて、どうしたらこの8,500を4,000にするんでしょ。4,000にするための、一つの結果論として、250ぐらいになるだろう、64が250になるだろうということなのかもしれないけれども、これはやっぱり区民の皆様提示したら、何だということになるんじゃないかなという、感覚的に思います。

ふだんあまりこういうことを言わないんですけども、やっぱりちょっと力が、腰が

入っていないような感じを受けたんですけど、部長、いかがでしょうか。

【高原環境部長】

食品ロスなんですけれども、先ほどビデオにもありましたとおり、お買い物などするとき、食べきれだけの量を買求めるとか、お使いになるということで、そういう形で減らす部分と、それから後、いろいろお中元とかお歳暮とか含めてですけれども、お家に届いた部分で、どうしても御家庭の中で消費しきれない部分というのを有効に活用しようというのが、それがフードドライブだったりとかして、いろいろ、もともとの減らしていく部分と、それからあと、余剰というんでしょうか、余裕が出た分をうまく活用していこうとかいうこと、いろんなそういうことの組み合わせの中で、食品ロスというのが進んでいくのかなと思います。

そうですね、取り組みは、今日はえどがわ食べきり推進運動ということで、環境部としてやっているもののほかにも、江戸川区役所、いろいろ、例えば学校関係、教育委員会ですとか、幼稚園保育園ですとか、いろいろなところで食育ということも含めた形で進めてきているところがありますので、今回一つ江戸川区食品ロス削減推進計画というような形でお話しさせていただいておりますのは、そういった今まで、個々でやっていた部分というのを一つ大きなパッケージのかたちで捉え直してみたいなど。全庁とか全区的にはどういことができるのかなというふうにまとめてみたいなどというところがありますので、実際に計画の形をやっていく中では、各分野からのいろいろアイデア、知恵を頂きながら、まとめていくというのが一つあるかなと思います。

それからあとは、先生がおっしゃるとおり、やはり10年間というある程度長期のスパンでの計画の中で、確かにその目標数値の設定の仕方ということで、ちょっと規模感として小さいではないかというような御指摘を頂いた部分につきましては、これはやっぱりもう一回精査をするような形で、しっかり、少し高望みというんですかね、目標ということでもありますので、気持ち一つにして頑張っていこうという、そういうものでもあろうかなと思いますので、そこのおっしゃるとおり、ちょっと適正な形に考えてまいりたいと思っています。よろしく願いいたします。

【岡島会長】

すいませんでした。8,500から4,000に10年に半減するんでしょ。それにふさわしい、意気込みが表れるような目標にしないと、誤解を受ける可能性もありますので、ぜひいろいろ検討してください。

ほかに、この件について、もしなければ、今回新しく御参加された中山先生と伊藤先生が今御指摘いただきましたけど、市民代表の齋藤さんは前から入っていますけど、お三方と、齋藤さんも何かあればひと言ずつでもいいので、この二つのことに関するお話でも結構ですし、ほかのごみ減量、廃棄物減量審議会としての方向性なり、お考えなりを、一言ずつ言っていただければと思います。それでは、中山先生からお願いいたします。

【中山委員】

ごみ削減ということより、先ほどのSDGsなんですけれども、私も初め聞いたとき、何のことやらさっぱり分からなくて、一遍に17を10年間で皆さんに伝えるということとは非常に大変なことであって、いろいろ研究してというか、人に聞いたりとかしましたら、全部をやれということではなくて、自分でできることを、それからやってきたこと、そういったものを人に伝えていくんだというようなことをすればいいんだということで、いろいろ互いにそういうことを心掛けて進めていけばいいんじゃないかということでございますけれども、いろいろやっぱり人間には感情とかいろいろありますから、10年間でこの17の目標が達成できるのかどうかということが、ちょっと疑わしいところがありますけれども、一生懸命お互いに頑張っていこうと思っています。

それと、一つお聞きしたいんですけれども、食べきり推進店の紹介というのは、ちょっとよく意味が分からないんですけれども、教えていただけますでしょうか。

【事務局（徳田主査）】

今御質問がありました、食べきり推進店についてなんですけれども、区内の飲食店、あるいは小売店の中で、食品ロスの削減についていろんな様々な工夫をされているお店、例えばお客さんの要望に応じて出す量を少なくしたりできたりとか、日ごろから商品管理をしっかりされて無駄の出ない在庫管理をされているお店とか、そういった様々な工夫をしているお店を区として食べきり推進店ということで認定という形をさせていただきまして、そちらの店舗をホームページなどで食品ロス削減について努力していただいているお店として紹介さしあげるような事業を実施しております。

【中山委員】

分かりました。これは主に飲食店ですかね。

【事務局（徳田主査）】

そうですね、多いところが飲食店でございます。

【中山委員】

だいたい、家族でご飯を食べに行くとなると、自分の好きなものを注文するんですから、ほとんどの方が食べきって帰るということが普通なんじゃないかなと思いますね。それとなんか、30・10運動なんですけれども、宴会での30・10なんですけど、まず挨拶が終わって、さあ乾杯となると、一番守らなくてはいけない上座に座っているような方たちのほうが先に立ってビールを注ぎだしたりとか、食べだしたりとか、そういう傾向が多々見受けられるんですね。だから、一生懸命、皆さん、一番リーダーシップを取らなくてはならない人たちが、まず30のほうを守ってないというところがあります。それと食べ残しは、やはり上座に座っているような人たちが食べていないというのが、ずっとここ2年間ぐらい見受けられるんですけれども、その辺も企業の方たちにも、また執行部の役所の方たちも、そういう宴会があったときには、よく最初に注意をして、自分たちも心がけるということを守っていただきたいと思います。

それともう一つ、先ほど伊藤委員に言っていたように、あと先生が言っていたように、目標を掲げたら、何かいい案を見つけていただいて取り組んでいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

【岡島会長】

それでは、こちらから、稲村さんから一言ずつお願いいたします。

【稲村委員】

ちょっと学校のことになっちゃうんですけれども、小学校とか中学、給食が出て、それも残っちゃう食材もあると思うんですけれども、栄養士の先生と家庭科の先生とも組んで、レシピを作るなり、家庭科の時間にもそのロスで残ったもので何か一緒に料理教室をやるなり、親子の料理教室をしてもいいかなと思っています。

あと、二、三か月お店も閉まっていたと思うんですけれども、やっぱりオレンジジュースとかシャンパン、ワインとかも残ってしまって、それでワインのゼリーを作るとか、工夫していることもいっぱいあると思うので、そのあと、去年も64レシピって、どこで公表したのか、ここでは何でしたっけ、ホームページに出ているらっしゃるとおっしゃっていたんだけど、スーパーとかそういうところにも、広報にも載せたりしていらしゃったのかも分かんないんですけど、今年、ちょっと引っ越ししてきたもので、広報に載せていただいたり、春夏秋冬のそのレシピを載せていただいたりしたらどうかなと思います。お願いいたします。

【岡島会長】

ありがとうございます。井邊さん、お願いいたします。

【井邊委員】

今稲村さんおっしゃったように、ちょっと発信の仕方というんですかね、情報の発信の仕方。区からの、例えば江戸川区では、このごみ減量に幾らかかっているのかという、例えば80億円ぐらいかかっているのかというのが、区民の皆さんがどれだけ知っている

るのかとか、こういう情報の発信の仕方がちょっと弱いかなというイメージがあります。なので、もうちょっと、区のホームページをわざわざ見ないと分からないようなことではなくて、イベントとかスーパーとかチラシ、区報。区報も、何か、私は見るんですけど、若い人たちはどこまで隅々まで見ているのかなというのが疑問なので、何か、江戸川区はこれだけ食品ロスがあるのかなという意識をまず持ってもらうために、発信の仕方をもうちょっと改善していただけたらなというのがあります。

ごめんなさい、もう一つなんですけど、さっきごみ減量の目標値なんですけど、令和3年度のごみ減量の目標値がマイナス20%と書いてあったんですけど、それはコロナの影響を鑑みての数値なのでしょうかと思ひまして、ちょっとコロナで、かなりごみは増えたんじゃないかなという印象があって、例えばお惣菜とかのバラ売りがなくなって、全部パッケージで一つ一つ包まれたりとかしてたり、マスクだとか手袋だとか、医療ごみもそうですけど、ちょっとコロナの影響を鑑みての数字なのかなというのが、ちょっと疑問に思って、ちょっと教えていただけたらと思います。

【岡島会長】

今の点についてはお答えください。

【事務局（浅岡係長）】

清掃事業係長の浅岡からお話をさせていただこうと思います。このマイナス20%の目標については、コロナ感染症の拡大というのは考慮されてございません。その上での目標値とはなっております。

【井邊委員】

下方修正はなしという感じですか。

【事務局（浅岡係長）】

今のところ下方修正等は考えてございません。このとおりで、目標として掲げさせていただきたいと考えてございます。

【岡島会長】

コロナの影響は今計算しないということですか。

【事務局（浅岡係長）】

はい、さようでございます。

【岡島会長】

そのうち、推知しなきゃいけなくなるかもしれないですけどね。しっかりやってください。井邊さん、よろしいですか。

【井邊委員】

はい、ありがとうございました。

【岡島会長】

加固さん、お願いいたします。

【加固委員】

新米なもんで、表の見方から一つ分かんなくてお聞きしたいことが、資料2で、上のほうに書いている、その収集ごみと、下の数表に載っている資源ごみなんですけど、下の資源ごみというのは、3万2,000トンというのは、収集ごみの16万8,000トンの内数なんですけど、外数なんですかというのが一つ。それを教えてほしいです。

もう一つ、私、家内にくっついてスーパーに買い物にこの頃よく行くんですけど、この食品ロスについてですけれども、賞味期限というのがどういう食品にもついているんですね。あれがあるがために、家内は賞味期限をオーバーするものは買わない、ないしはスーパーのほうで賞味期限過ぎそうなやつはえらい値引きをしている。これ、そういう習慣をここ数年というのか、できているんでしょうけれども、いわゆる消費期限というのは物にはありますよね。考え方を、その賞味期限ではなくて消費期限というのかな。いつまでに使えばいいんだ、食べればいいんだというふうな表示のほうに重点を置くようなやり方はできないんでしょうかと。これによって食品ロスというのは、かなり減るんじゃない

いかと、スーパーで。

【岡島会長】

はい、まず最初の点、内数か外数か。2つ目の点は、お考えを聞かせていただければと思います。

【事務局（加山参事）】

まず御質問の1点目、資源ごみは内数なのか外数なのかという御質問は、外数でございます。別のものでございます。

【岡島会長】

それから、答えが大変難しいと思うけど、個人的な御質問だと思いますけれども、もし御意見があれば、区のほうの見解を述べていただければ。

【事務局（加山参事）】

2点目の御質問でございます。賞味期限ではなくて、すべて消費期限にしたらいかがかという御意見だったと思いますけれども、やはり食べ物ですから、食中毒のことも考えなければいけないと思っています。足の早い食品もありますし、比較的長持ちするような食品と、やっぱり分けて考える必要があって、そのために食品衛生法というのがあります。比較的食中毒を起こしやすいようなものについては、消費期限という表示の仕方をしています。一方、わりかし長持ちするものについては、ある程度安全係数をかけながら、賞味期限という設定をしてございますので、一律に消費期限にするというのはちょっと難しいかなと思っていますところでございます。以上です。

【岡島会長】

ありがとうございました。齋藤さん、何かありますか。短めにお願いします。

【齋藤委員】

30・10運動のところなんですけれども、今このコロナ禍の中で宴会とかはほとんどなくなっているんじゃないかなと思います。こういった30・10運動とかは、10日、30日の家庭での食べきりの、そういった何か、皆が取り掛かりにくい問題じゃなくて、もっと皆がやりたいなと思うようなことを、逆に区民の皆でアイデアを募ってもいいんじゃないかなと思います。やはり、役所の方で考えるだけじゃなく、やっぱり呼び掛ける。例えばよく、新しくできた施設の名前を呼び掛けて新しい名前が決まって、なかなかいいアイデアだなと思うことが多々あるので、そういったものを区民の方から応募してみるといいかがでしょうか。

【事務局（石川係長）】

貴重な御意見、ありがとうございます。そうですね、家庭での30・10については、冷蔵庫クリーンアップデーとか、あとはもったいないクッキングデーとかさせていただいて、これまでホームページで食べきりレシピを御紹介させていただいたりとかして取り組んできたところなんですけれども、今齋藤委員さんからも言っていた件についても、検討させていきたいと思っています。ありがとうございました。

【岡島会長】

ありがとうございました。30・10とか、今の賞味期限とか消費期限とか、実はもう10年ほど前からいろんなところで、ここでも何度も議論されたことですので、たまった議論もありますので、また御質問があったら、個人的にも委員の方々、古い方もいらっしやあって、やはりかなり蓄積もありますので、役所及び委員の方に直接、どんどんお聞きください。役所のほうも、区役所のほうも、小さいことでも何でも答えてくれますので、遠慮なく電話掛けて、今日のあとも、この数値ちょっと分かんないんだよなんていうことは、どんどん聞いてみてください。そうして、こういう場で、そういう質問じゃなくて、前向きの話ができるように、どんどんしていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

それでは、ほかの方で、今日この今出たいろんな話の中で、私も一言意見があるという方は、どうぞ手を挙げてください。

【松本委員】

ちょっといいですか。

【岡島会長】

はい、お願いします。

【松本委員】

商店連合会の松本でございます。前々回でしたかね、マイバックの問題で、ちょうど7月1日からマイバックが有料化になるということで、それに合わせて商店連合会で宣伝をしようということで計画しておりました。コロナの問題でずるずるときまして、ようやくエコセンターから、このマイバックをとりあえず1,200個用意していただきまして、それでその中にちょうど10月1日から11月15日まで商品券祭りを、商品券を15軒販売いたします。15%お得だという名目で、もう準備に取り掛かっていまして、大体準備できました。このマイバックの中にこのアンケート用紙を入れまして、それで回収すると、それでこのアンケート用紙を返ってきた方には商品券、抽選で500円の券をプレゼントするというかたちにいたしました。なるべく今、織先生ではないですけど、若い人たちにあげるように、各支部ごとに割り当ていたしまして、今日発表する次第でございます。

それともう一つ、SDGsでしたっけ。非常にこれも、今まで長期的な計画だということで、ちょっと認識しまして、それで前からちょっと私も言っていましたけど、この食べきりとか、そういうもったいない運動とかの、各事業飲食店の協力店に関しましては、何か御褒美といったらおかしいですけども、そういうのどうだろうという話をしていたんですけども、それで私は、これ、ホームページで、さっき井邊さんでしたっけね。ホームページだけじゃなくて、私今ちょっと考えたんですけども、産業表彰というのが年に1回あるじゃないですか。あれで何店が表彰するというかたちみたいなこと、提案したいんですけど、部長考えてください。そういう優秀店をやっぱり宣伝しないと、そういうところにはコロナの問題で、ちゃんとコロナ対策を外も中もやっているお店というのは、ものすごく繁栄しているんですよ。

【岡島会長】

はい、部長ちょっと、一言。

【高原環境部長】

そうですね、産業賞のほうで表彰するか、あと環境フェアとか環境の中央大会のほうでも優秀な店舗などを表彰することもできるのかなと思いますので、やっぱりエコであったりとか、食べきりであったりとか、いろんなかたちに積極的に貢献していただける店舗というのを、やっぱりちょっとあれですね、何か表彰するとか、ちょっと失礼な言い方かもしれないけど、褒めてあげるという形の在り方というのはありかと思しますので、それは研究させていただきたいと思います。ありがとうございます。

【松本委員】

よろしくお願いします。

【岡島会長】

松本さん、どうもありがとうございました。今のエコバックというのは、皆、先生方にもあげたの。

【松本委員】

今日あげるんだよね。

【事務局（佐藤次長）】

はい。

【岡島委員】

持って歩いて宣伝してもらわないといけないでしょう。

【事務局（佐藤次長）】

本日委員の皆さんの分、御用意させていただいておりますので、お帰りの際に一つず



つお渡しさせていただきたいと思いますので、ぜひ御活用いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【岡島会長】

ありがとうございました。

それでは、時間も今日ちょっと早めに終えようということで、コロナのこともあるのでという御指示もありますので、最後に織先生、聞こえますか。聞こえなくなっちゃったかな。織先生、一言お願いいたします。

【織委員】

聞こえますでしょうか。聞こえますか。

ちょっとコロナの中で初めてオンラインで参加させていただきましたけれども、こういうやり方もありだなと。今日皆さん積極的な、特に食品ロスに関して皆さん関心が高いのは印象的でした。2030年まで10年というと、すごい、SDGsは長いスパンなんですけど、できることはさっき岡島先生がおっしゃったように、とにかくどんどん早く早く、Change for the Futureということでやっていかなければならないので、皆さんで頑張ってください。ありがとうございます。

【岡島会長】

織先生、ありがとうございました。

それでは最後に事務局から連絡事項、ございましたらお願いします。

【事務局（加山参事）】

最後になります。机上にお配りしております、前回、第58回の審議会の議事録についてでございますが、議事録訂正等がございましたら、9月11日（金）までに清掃課庶務係へお願いいたします。以上でございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。それでは、以上をもちまして閉会とさせていただきます。ちょっと急いだりして、申し訳ありませんでした。また発言されなかった方も、次回からは少し時間もちゃんと取れるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。どうも御協力ありがとうございました。

了